





第456号 **公益社団法人
徳島県環境技術センター**

徳島市津田海岸町2-33
電話 (088) 636-1234(代)
FAX (088) 636-1122
発行責任者 大坂 利 弘
編集者 原岡 艶 甲

30 年度

徳島県人事異動発令

徳島県は、4月1日付けで、平成30年度の職員定期人事異動を発令した。

今回は、課長補佐級以上で異動するのは前年度より13人多い624人で中規模となった。

主な組織改革では、大規模災害に備える県土強靱化を指揮する政策監補を2年ぶりに置き、政策監補には瀬尾守県土整備部長が兼務する。

また、係長以上の女性職員は前年度より7人多い、過去最多の375人となり、全管理職に占める女性管理職の割合は10.2%（前年度対比でプラス0.6%）で初めて10%を越えた。

センター関連の異動では、南部総合県民局長に折野好信氏（大阪本部長）、西部総合県民局長には秋川正年

氏（東京本部長）が就任した。

また、水・環境課長には三好一先生（東部県土整備局次長）が就任した。その他のセンター関係の主な人事は次のとおりである。（カッコ内は旧任）

（敬称略）

<input type="checkbox"/> 県土整備部長 水・環境課長 副課長 住宅課建築指導室長	瀬尾 守 三生 好 井 田 内 一 井 内 浩 内 薫
<input type="checkbox"/> 東部保健福祉局長 徳島保健所副局長 課長 吉野川保健所副局長 課長	大西 英 治 中川 洋 一 林 修 三 中 川 洋 一 小 川 恭 子
<input type="checkbox"/> 南部総合県民局長 保健福祉環境部長 次長 環境担当 課長補佐	折野 好 信 香川 和 仁 岩川 博 司 小 佐 博 明 川 佐 博 明 川 佐 博 明
<input type="checkbox"/> 西部総合県民局長 保健福祉環境部長 副部長 課長	秋川 正 年 原 田 仁 宮 崎 宏 尾 崎 宏

※緑字は新しく就任した方

第4回

浄化槽技術講習会 を開催

県環境技術センターは、平成30年2月16日(金)アスティとくしまにおいて第4回浄化槽技術講習会を開催した。

この講習会は、浄化槽関連業務に従事する方々に対する情報提供や、技術力向上を目的として、年間4回程度センター主催で実施しているものである。

毎回講習内容については、受講する方の業務の一助となるよう工夫を凝らして開催しているが、今回は、今までに開講出来ていなかった清掃業務に関する講習と、受講者の方からの要望が寄せられていた、中・大型浄化槽の構造と維持管理について開講した。

1時限目としては、「顧客満足と清掃業務」～浄化槽『管理』と『清掃』の連携～と題して、(有)久保衛生・城田佳治氏が講習を行った。

浄化槽の清掃業務は単独で行うことが一般的であるが、城田氏の事業所では、清掃の担当者が、日頃保守点検を実施している管理士とチームとなり、十分な連携を図ることで、作業の効率化やクレームの減少、清掃作業の品質向上に繋げており、大きな成果を上げていることを紹介した。

講習では、実際の事例紹介も交えての内容であった

ため、受講者の方も非常に熱心に聞き入っていた。

2時限目には、「中・大型浄化槽の構造及び維持管理について」と題して、フジクリーン工業(株)大阪支店マネージャーの伊藤辰夫氏が講演を行った。

今までの講習会では小型浄化槽の講習がほとんどで、中・大型浄化槽の維持管理に関する講習は行われていなかったことと、メーカー技術者ならではの詳しい解説を交えた分かり易い講習で、受講者の方からは好評であった。

3時限目には、「浄化槽の人員算定基準について」と題して、環境技術センターの藍原検査部長が講師となり、比較的申請数の多い建築用途の人員算定の基礎について、講習をおこなった。

今回は、今までに実施出来ていなかった内容を中心とした講習会であったため、受講者の方からは、非常に興味深い内容であったとの感想が寄せられた。

日進月歩で進化を続ける浄化槽を適正に維持管理するためには、最新の情報発信が不可欠であることから、センターでは今年度も定期的な講習会の開催を計画している。



平成29年度 全浄連事務局長会議を開催

(一社)全国浄化槽団体連合会は、2月29日(水)、正会員42団体から55名、特別会員の8団体から10名の事務局長らを集め、東京のホテルグランドヒル市ヶ谷で、平成29年度の事務局長等会議を開催した。

最初に、先日逝去された佐藤会長に全員で黙祷を捧げた後、加藤会長代理(静岡県会長)が挨拶をし、そのあと全浄連の事務局から次のとおり報告があった。

1. 平成29年度二酸化炭素抑制対策事業費等補助金に係る会員団体の取り組み事例について

- (1) 事業報告 [全浄連事務局]
- (2) 事例紹介 [富山県浄化槽協会]
[鹿児島県環境保全協会]

事業報告では、平成29年度の実績と30年度の事業について説明があり、30年度は101人槽以上の旧構造基準の合併処理浄化槽の交換も新たに補助の対象になると共に、補助事業の総額も10億円から16億円に増額される予定であることの報告があった。

事例紹介では、鹿児島県環境保全協会の牧事務局長が、この事業は業界だけでなく、行政や設置者にも同補助金の周知が必要であり、鹿児島県では、説明会を数多く実施した。また、対象浄化槽リストを分析し、補助金の優先度をつけ、ブローの型式調査を行うなど熱心に取り組んだ結果、30件、28百万円の補助があったことを報告した。



午後からは、行政の動向や課題について各省庁から講演があった。内容は次のとおり

1. 最近の浄化槽行政について
環境省 浄化槽推進室 室長 松田尚之氏
2. 建設業界を取り巻く状況について
国土交通省 建設業課 企画専門官 橋本一洋氏
3. 水環境保全への取り組み
環境省 水環境課 課長補佐 甲斐文祥氏
4. 10年概成に向けた効率的な汚水処理施設整備
国土交通省 下水道事業課 課長補佐 村岡正季氏
5. 下水道財政の現状と課題について
総務省 公営企業課 下水道事業係長 関本 徹氏

続いて、議題に入り、浄化槽関係技術者の養成について(公財)日本環境整備教育センターの藤野氏から報告があった。この中で、浄化槽管理士の技術向上を確保する方法として、すでに一部の県で行っている「保守点検登録・更新時に技術講習会の受講を要件とする」を義務付けすればよいとの提案があった。これにより、最新技術の習得や名義貸しの抑制等に一定の成果が得られることが期待できる。最後に事務局から平成29年度の事業計画の進捗状況について報告した後、午後4時30分に閉会した。

平成29年度 浄化槽行政ブロック会議 (中国・四国ブロック) 開催

2月9日、浄化槽行政ブロック会議が阿南市文化会館で開催された。

この会議は、環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課浄化槽推進室が主催となり、浄化槽行政に関して都道府県・市町村の浄化槽行政担当者との情報交換を行う事を目的とした会議であり、中国・四国ブロックの行政担当者20名のほか、当センターからも川人事務局長他2名が班討議のコーディネーターとして参加した。

会議では、環境省浄化槽推進室 多田宏樹環境専門調査員による浄化槽行政報告のあと、情報提供として(公財)日本環境整備教育センター 濱中俊輔氏による



「地方公共団体における浄化槽に係る個人情報の取扱い」の説明があった。

その後、4つの検討テーマのグループに分かれ班討議を行い、その討議結果の発表に基づき、参加者全員が活発な意見交換を行った。検討テーマは次の通り。

- ①浄化槽の適正な維持管理の推進及び法定検査受検率の向上
- ②浄化槽整備事業の推進施策
- ③単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換施策
- ④浄化槽台帳システムの整備における効率的手法

第 47 回 理事会を開催

県環境技術センターは、2月19日(月)午後3時から理事12名、監事2名の役員全員が出席し、第47回理事会を開催した。

最初に空保理事が、定款第40条の定足数を満たしているので理事会が有効である旨を報告した。

続いて、大坂会長が挨拶をした後、議長となり議事を進行した。なお、理事2名が未到着のため、報告事項から開始することとなった。

《報告事項》

(1) 委員会開催の結果報告について

①環境広報委員会

2月5日に開催した同委員会の結果につき、空保理事が、今後も環境学習等子供たちへの啓発・教育を中心に取り組むことを報告した。

②保守点検清掃委員会

川人専務理事が、1月11日に県水・環境課と理事7名が保守点検登録に関する協議を行った結果を報告した。センターから県に対し今後、登録の際の機器・車両の確認等を徹底すること等について要望したことを説明した。

(2) 執行理事の業務報告について

執行理事の1月・2月の業務につき報告した。

《協議事項》

(第1号議案) 平成30年度の事業計画案及び予算案について

空保理事が事業計画を、川人専務理事が予算案をそれぞれ説明した。部会の設置等について議論が交わされたが、結果として原案どおり承認された。

(第2号議案) 会員理事の選出方法の決定について

川人専務理事が、理事の任期が5月の総会までとされていることから次期会員理事の候補者を決定する方法につき3案から選択することを説明した。協議の結果、前回と同様、業種ごとに選考会を開催し、出席者の中で候補者を推薦することが決定した。なお、選考会は4月16日(月)に開催することとなった。

(第3号議案) 物品購入に関する規定の制定について

前回の理事会で、高額機器の購入の際の入札制度等ルールを整備する必要があるとの意見が多かったことから、物品購入に関する規定(案)について、協議した。結果、300万円以上の物品については、事前に協議し、原則として入札することなどを含む規定を新たに制定した。

(第4号議案) 分析機器(原子吸光光度計)の購入検討について

前回、機器の選定の過程が不透明であるとの指摘があったことから、改めて幸泉課長が機器の概要や特徴、

優位性等、選定の根拠となる資料を示し説明した。協議の結果、同機種の購入が承認された。

(第5号議案) 旧支部地区への報告会の開催日程について

昨年の夏に開催した地区報告会での意見につき、理事会で議論した経過を報告するため、別添の日程で再度地区報告会を開催することとなった。

(第6号議案) 各種表彰への推薦の取り扱いについて

県あるいは全浄連等からの推薦依頼文書の到着から締め切りまでの時間に余裕が無いため、事前に該当理事の一欄表を作成し、候補者を選定することが決定した。

以上全ての議事が終了したため、午後5時10分に散会した。



阿南市活竹祭 開催 こどもフェスティバル

「第26回阿南市活竹祭」・「第15回阿南市こどもフェスティバル」が、平成30年2月25日(日)、新築竣工した阿南市役所および庁舎駐車場等において開催された。

今年度は、阿南市の新庁舎が落成したのを期に、活竹祭・こどもフェスティバル共催で、市役所新庁舎での開催となった。

環境技術センターも、活竹祭には、センター会員・役職員が浄化槽による水環境保全の普及啓発を図るべく参加し、また、こどもフェスティバルには、センターが幹事団体として活動を展開している、みなみから届ける環づくり会議が、「水のふしぎのイロハ」と題して科学実験を行い、センター職員がそのメンバーとして参加した。

当日は、雨水(二十四節気の一つ。雪が雨にかわり、氷が解けて水になる時期)を過ぎたとはいえ底冷えのする非常に寒い一日であったが、早朝より多くの来場者があり、例年通りの活気あるイベントとなった。



センターが設けたブースでは、浄化槽クイズによる啓発活動が実施され、クイズを楽しみながら浄化槽の適正な維持管理啓発と、合併浄化槽の普及促進が行われた。

クイズ参加者には、水環境保全に役立つ粗品が進呈され、併せて水環境保全のパンフレットを手渡して、保守点検・清掃・法定検査の徹底を呼びかけた。

今年度は約500名以上の来場者の方に対して浄化槽の適正な維持管理の啓発活動を行ったが、阿南地区での啓発は15年前から実施していることもあり、来場者のほとんどがセンターの存在と活動内容を知っており、手ごたえを十分に感じる事が出来る事業となった。

今年度は、10月の浄化槽月間に東部（鳴門市）、南部（阿南市）、西部（三好市、美馬市）と県下の主要地域で街頭キャンペーン方式での啓発活動を実施してきたが、年度末にむけての啓発活動を締めくくる充実した内容の一日であった。

第15回 阿南市こどもフェスティバル開催

平成30年2月25日(日)、阿南市役所新庁舎において「第15回阿南市こどもフェスティバル」(主催:阿南市こどもフェスティバル実行委員会・阿南市・阿南市教育委員会、共催:阿南工業高等専門学校)が開催された。



同イベントは例年10月に開催しているが、昨年は衆議院議員選挙の影響で延期となり、今年と同市で例年開催されている活竹祭と合同で開催することとなった。

環境技術センターが幹事として活動している(みなみから届ける環づくり会議 水質ワーキンググループ)も例年に引き続き「水のふしぎのイロハ」と題して出展し、センターも一員として参加した。

内容としては、紙すき体験や、岡川で生息する魚の展示の他、センターからは環境学習や昨年のイベントで好評であった「アサリによる汚水の浄化実験コーナー」を提供出展した。

今年では会場の事情で出展スペースが縮小されたために紙すき体験に人数制限を設けざるを得なかったが、それでも活竹祭との合同開催となった影響もあって短時間で満員となった。また、来場者の多くが川魚やアサリの浄化実験の水槽に足を止めて見入っており、特に子供はスタッフの解説を聞きながら興味深く観察していた。

水質計量便り

～最強生物！クマムシの新種見つかる～

水処理の世界でも大活躍しているクマムシですが、このたび国内27番目の新種が発見されたそうです。体表を覆うクチクラという角皮にある孔が小さく、3対の前足の出っばりや卵の表面の突起の形状、遺伝子情報により新種と判明しました。発見場所である山形県の庄内地方の名前から、和名は「ショウナイチョウメイムシ」と命名されたそうです。

クマムシといえば、体長1ミリ以下の小さな生き物ですが、150度の高温状態や、マイナス200度にさらされていても蘇生し、放射線が行き交う宇宙空間でも耐えられる、世界最強の生き物といわれています。

こうした極端な環境では、クマムシは体を丸めて小さな乾燥した樽状になり、「乾眠」とよばれる、まるで冬眠のような状態を維持するそうです。

また、従来のクマムシ研究では、雌の単為生殖を特徴とするヤマクマムシ科を対象にしたものがほとんどであったようですが、「ショウナイチョウメイムシ」は、雌雄が存在するため生殖の実態解明にも期待されているそうです。

その他に、ワクチンへの応用も期待が寄せられています。ワクチンは極度に脆弱であり、輸送の際には莫大なコストをかけて冷凍処理を施す必要がありますが、クマムシの持つたんぱく質の応用法として、ワクチンや薬剤を乾燥した状態で安定させる方法が考えられています。これにより、輸送も室温のままで行うことができ、冷凍処理に関する心配がなくなるのです。

このように、注目を浴びているクマムシですが、世界には1,000種類以上存在し、毎年約20種の新種も見つかっているそうです。

もしかすると、覗いた顕微鏡に新種のクマムシが見つかるかも知れませんね。(# ^ . ^ #) by koizumi

事務局だより

法定検査のお知らせ

次の日程で法定検査を実施します。

- 11条検査
日程：平成30年4月3日～平成30年5月11日
地区：徳島市・鳴門市・三好市・松茂町・板野町・東みよし町
- 7条検査
日程：平成30年4月3日～平成30年5月11日
地区：徳島市・鳴門市・藍住町・北島町・松茂町・板野町・石井町・神山町・佐那河内村
- 那賀町検査(らくらくあんしん協議会)
日程：平成30年4月3日～平成30年5月11日
地区：那賀町全域
- 神山町検査(神山町きれいな水づくり協議会)
日程：平成30年4月3日～平成30年5月11日
地区：神山町全域